

「漆を使った草木染め体験」を開催

府民の皆さまに丹波漆や緑化センターの取組への理解を深めていただくため、「NPO法人 丹波漆（岡本嘉明理事長）」と共催で、「漆を使った草木染め体験」を11月7日に開催しました。今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、午前・午後の2部制とし、各8名の16人限定で参加者を募集しました。

当日は府内一円から親子連れなど15名が参加し、当センター職員から丹波漆の1300年の歴史や特色、復活に向けた取組を紹介した後、漆の木のチップを煮出した染液で、マスクとストールの絞り染めを体験しました。

参加者は、講師で能登草木染め研究室を主宰する新谷茂・幸子 夫妻から、「漆は染めの発色も良く、耐光性が高いので、色あせもしにくい」といった話を聞きながら、思い思いの作品を染め上げることができ、丹波漆の新たな魅力にふれる一日となりました。

緑化センターでは引き続き、研究や体験会をとおり、日本の伝統・文化を支える丹波漆の振興を支援していきます。



漆のチップ



漆を使用した草木染め



作品を前に記念写真

農林センター(森林技術センター 緑化センター)